文部科学省平成24年度大学間連携共同教育推進事業
「産学公連携によるグローカル人材の育成と地域資格制度の開発」

龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

グローカル人材育成プログラム

Glocal
Human
Resources
Development
Program

GLOCAL = GLOBAL+LOCAL

グローバルなビジネスマインド
地域社会を支える公共マインド
をそなえたグローカル人材の育成をめざす

初級地域公共政策士
GPM(グローカルプロジェクトマネージャー)
２つの資格を取得できるプログラム

01 階層的に学ぶアクティブラーニング（AL）とPBLにより 課題解決策を考える力を磨きます

プログラムの特色

龍谷大学政策学部では、公共的な課題だけでなく、地域の産業界との様々な課題を解決できる人材の育成を目指しています。そのためには、社会で必要とされる知識やスキルの習得が低年次から不可欠であり、階層的な学習プログラムを用意しています。1年生では基礎演習で「課題や調査屋提案のための基礎的な力」をやしない、2年生ではチームワークの向上のためのスキルやマインド（態度）を身につけるとともに、地域や企業への訪問を通じて生きた課題について学びます。3・4年生では経済のグローバル化や成熟社会での企業のあり方を考え、「課題解決策を考えることができる力」の習得を目指します。

中森孝文
（政策学部教授）

担当科目： 地場産業論、キャリア・デザインのための企業研究、企業のCSR実践演習

Q. 「階層的に学ぶ」とはどういう意味ですか？

A. 政策学部では、2回生から3回生後期までの各学期にALまたはPBL科目を配置し、地域や企業の実際の課題に向き合う機会を設けています。上回生の科目になるに従い、具体的な課題の解決策を考察することになっています。さらに並行して、1回生の基礎演習から2～4回生のゼミ（演習）が置かれています。

Q. 上回生の科目になるに従い具体的な課題解決策を考察する、ということですが、例えば「企業のCSR実践演習」はどんな内容ですか？

A. 企業の単なる社会貢献活動だけでなく、人や社会・環境に優しい活動は、実は短期的には企業の利益を圧迫するものの、長期的には企業の継続に繋がるということを理解し、授業への協力企業に対して効果的なCSR 活動を提案するといった高度な内容になっています。

Q. 企業・地域と連携したアクティブ・ラーニングを積み重ねることで、学生はどう成長していきますか？

A. 学生は「自分は何を学びそれをどう活かすのか」について、絶えず意識しながら学ぶことができるために、社会の「即戦力」となる学生が育っていきます。大学時代を「自分気づき」に充てる人は少なくありませんが、大学での学びを社会でどのように活かすのかを想像しながら「自分築き」に使ってもらいたいですね。

Q. アクティブラーニングとはどのような学習方法ですか？

A. 学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法のことで、このプログラムではさらに現場性が必要とされています。

Q. PBLとはどういう意味ですか？

A. Project（Problem）- Based Learningの略で、一定期間内に目標を実現するため学生が自ら発見した課題に取り組み、それを解決するためチームで協働して取組む創造的・社会的な学びです。

受講生の声

一連の授業を通じた職業観の変化について

多くの社会人の考えに触れる中で、なりたい自分像が鮮明になりました。また、定量的・定性的な理論と実践の場を通し、多角的な視点で考察する癖が身につきました。現在は、学んだ見方を用いて企業の強みを見抜き、自己実現のための進路を模索している最中です。軸には自身の能力を活かすことで、社会に影響を与えたいという思いがあります。授業を通し、働くことで自分と社会とを強く結びつけたいという意識が芽生えた点が大きな変化です。

九里伊吹
（政策学部3回生）

政策学部の学生にも公共マインドとともにビジネスマインドが必要な理由を教えてください

的場信敬
（政策学部准教授）

担当科目：
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションA（公共性・コミュニティ）

多様化・複雑化した社会課題に対応する協働型社会実現の重要性が高まる現在、新社会人に求められる資質は高度化・多様化しています。例えば、公務員志望者は、公共的な知識や思いなど「公共マインド」だけでなく、パートナーとなるビジネス分野の方法論やコミュニケーション力、心構えといった「ビジネスマインド」についてもしっかりと理解する必要があります。逆もまた然りで、現在では多くの企業が公共に貢献する方策を常に考えた経営を行っており、公共マインドをもったビジネス人材へのニーズは非常に高くなっています。つまり、「公共マインド」と「ビジネスマインド」を併せ持つことが、多様な分野に対応する人材としての価値を高めることにつながるのです。

前期 AL コミュニケーション・ワークショップ演習
後期 AL キャリアデザインのための企業研究
後期 演習Ⅰ（～3回生前期）
後期 PBL グローカル戦略実践演習
前期 AL 企業のCSR実践演習　後期 演習Ⅱ（～4回生後期）

前期 基礎演習Ⅰ　後期 基礎演習Ⅱ

1回生 | 2回生 | 3回生 | 4回生

企業と連携した双方向型授業により 実践的な提案力を身につける
キャリア・デザインのための企業研究

「キャリアデザインのための企業研究」では、ビジネスマインドと実践的な提案力を重視し、企業の方を授業に招き、学生が企業訪問することによって生きたお話をおききするだけでなく、学習成果を発表会を通じて企業の方に発信し意見交換の場を設けています。協力企業からいただくコメントは時には厳しいものもあり、授業で得た経験は次年度科目の学習につながります。また、学生自身が調査した情報は、インターネット情報や統計資料では測れない企業の強み・弱みを見抜く力にもつながり、就職したい企業選定にも生かされています。

山本正典 株式会社グランマーブル 代表取締役

これほど役立つ事が得られ、おまけに単位まで取れる。誤解を恐れずに申し上げれば「学生にとって本当に美味しい授業」だなって感じました。いずれ「就職と人生を考える」事に直面した時、自己を総括したりなど多くの学生が悩みもがきます。しかしこの授業を受け学び感じ工夫すれば、自ずとその解決のヒントが得られるんじゃないかと感じたからです。学外授業で企業の経営者から無形の強みを探り、そして企業への提案・学生たちのキャリアデザイン考察と総括。先生方の優しくも熱い想いのある良いプロセス・授業だと思います。

受講生の声

福本真由
（政策学部3回生）

キャリアデザインのための企業研究を終えて

授業全体を通して、常に企業のことをもっと知りたいという思いでした。自主的にヒアリングや現地調査を行い、企業経営に欠かせない経営者や社員の方々のこだわりと工夫が、企業の強みになっているのだと実感しました。

2014年度協力企業（五十音順）

株式会社グランマーブル
株式会社坂ノ途中
株式会社世界思想社教学社
株式会社ちきりや
こと京都株式会社

地域社会を支える公共マインド＆ビジネスマインドの獲得をめざす
企業のCSR実践演習

政策学部では、地域の政策課題を取り上げた科目が中心ですが、公共マインドとビジネスマインドの両方の視点を取り入れた科目として「企業のCSR実践演習」があります。この科目は、企業が取り組んでいる持続的な発展に向けてのCSR活動の意義を理解し、企業はもちろんのこと社会全体の持続的発展に貢献できる人材育成を目指しています。2014年度は、約40名が6チームに分かれ、企業のご協力をいただき調査・提案を行いました。

米山友紀 村田機械株式会社 業務支援本部業務グループ

授業に協力させていただくことで、企業側としても多くの気づきを得ております。当社を担当いただいたチームの皆さんが訪問された際には、当社のCSR活動について事前にしっかりと調査をしてこられました。お互いの理解を深めるため活発な議論を交わしていく中で、自社に足りていない点、あるいは評価いただいている点などに気づくことができます。そうしたプロセスを経たうえでご提案いただく内容は、どれも課題解決のストーリーが良く伝わる素晴らしいものです。実際に、当社CSRレポート制作にあたり、提案の一部を採用させていただきました。

受講生の声

新田 廉
（政策学部3回生）

CSRを受講して

多面的かつ長期的に物事を捉える重要性に気づきました。利益に貢献しないように見えるCSRが、結果的に会社の存続に繋がると学んだからです。なので今は、給料等の表面的な情報ではなく、働きがいで進路を決めようと考えています。

2014年度協力企業（五十音順）

株式会社樽徳商店
株式会社ワコールホールディングス
関西テレビ放送株式会社
富士ゼロックス株式会社
村田機械株式会社
ワタキューセイモア株式会社

※本授業は、CSRネットワーク参加企業を中心に協力いただき、京都府府民力推進課にコーディネートいただいています。

02 グローカル人材PBLの受講でGPM資格も取得できます

プログラムの特色

グローカル戦略実践演習

この科目は、2015年度から開講される企業連携型PBL科目で、地域の経済団体、金融機関、企業の協力を得て開発しています。京都の中小企業が海外展開する上での課題を企業訪問を通じて明らかにし、経済団体・金融機関のサポートについても調査・検討します。最終報告会では、企業のほか、経済団体・金融機関から学生からの提案に対するコメントをいただきます。履修には事前登録が必要で、先行履修の要件としてAL科目の履修が必要となっており、P2-3の履修モデルに従って、階層的な履修をおすすめします。

村田 和代
（政策学部教授）

グローカル PBLでは、英語による コミュニケーション力が重視されるのでしょうか？

答えは「いいえ」です。受講にあたっては英語力のレベルを条件とはしていません。この科目は演習形式で、座学とフィールドワークの両方から構成されます。地域の中小企業のグローバル展開を支援する団体や金融機関から講師をお招きしてお話をうかがったり、異文化間コミュニケーションについてワークショップ形式で学んだりします。そして、京都の中小企業の中で、生産拠点を海外に移転している企業、京都ブランドを海外に発信している企業、外国人観光客を京都に呼び込んでいる企業、外国人労働者を雇用している企業などを対象に、受講生はグループで訪問調査を行い、質的または量的なオリジナルデータを基に、課題解決をめざした提案を作成、発表会で成果を発表します。授業自体で語学力が問われることはありませんが、企業がグローバルに展開するためには外国語が必要であることは言うまでもありません。外国語の学習意欲が高まったり、海外の方々と仕事をしてみようというチャレンジ精神が芽生えるような科目にしたいです。

担当科目：
コミュニケーション・ワークショップ演習
キャリア・コミュニケーション演習
グローカル戦略実践演習

03 海外の大学と協働で実施するAL科目があります

プログラムの特色

政策実践探究演習（海外）

海外の大学と協働するPBL科目で、事前講義、協働学習（春季休業か夏季休業中）、事後講義で構成されます。これまでの取組では、ドルトムント工科大学（ドイツ）（2013・2014）および南京大学（中国）（2014・2015）と連携し、試行しています。

初級地域公共政策士の取得のためには、下記に示した科目群から必要な単位を取得し、地域人材開発機構（COLPU）に申請します。さらに、グローカルPBL科目を履修しグローカル人材センターへ申請することによって、「グローカルプロジェクトマネージャー（GPM）」資格を取得することができます。

初級地域公共政策士（グローカル人材プログラム） ＋ **グローカル人材PBL**（龍谷大学科目名「グローカル戦略実践演習」） → **グローカルプロジェクトマネージャー（GPM）**

ABCDから各1科目以上、計6科目を履修

A
- グローバル・シチズンシップ・エデュケーションA（公共性・コミュニティ）
- グローバル・シチズンシップ・エデュケーションB（民主主義）
- アジアの地域・都市政策
- 欧州の地域・都市政策
- 米国の地域・都市政策
- 地場産業論

B
- キャリアデザインのための企業研究
- 企業のCSR実践演習

C
- コミュニケーション・ワークショップ演習
- コミュニケーション応用演習（2015のみ）
- キャリア・コミュニケーション演習（2016より）

D
- 政策実践探究演習（海外）ⅠA/ⅠB
- 政策実践探究演習（海外）ⅡA/ⅡB
- グローカル・コミュニケーション英語A/B
- 政策総合英語A/B

※ 科目名は2015年度のものです。今後、名称が変わる場合があります。

龍谷大学 政策学部 RYUKOKU UNIVERSITY

お問い合わせ 龍谷大学政策学部教務課
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
http://www.policy.ryukoku.ac.jp/
TEL（075）645-2285
FAX（075）645-2101